

令和4年度第1回板橋グリーンカレッジ運営協議会会議録

令和4年7月13日(水)
板橋区立シニア学習プラザ

【開 会】14時00分

<p>(事務局)</p>	<p>本日はお忙しい中、またお足元の悪い中お越しいただきありがとうございます。只今より、令和4年度第1回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会させていただきます。議長、副議長の選出まで、会の進行は事務局で務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。</p> <p>本協議会は、板橋区高齢者大学校及び板橋グリーンカレッジ大学院事業の円滑な運営を図ることを目的に開催するものでございます。</p> <p>それでは、議題に入る前に資料の確認をさせていただきます。</p> <p>資料1「板橋グリーンカレッジ運営協議会委員委嘱名簿」 資料2「令和4年度板橋グリーンカレッジ受講状況」 資料3「令和4年度後期板橋グリーンカレッジ講義概要」 参考資料「板橋グリーンカレッジ運営協議会要綱」 以上でございます。</p> <p>本年度より板橋グリーンカレッジ事業は教育委員会事務局に所管が変更となり、本協議会も教育委員会事務局による運営となることから、教育委員会より委嘱状を交付させていただきます。なお任期は令和6年5月31日までの2年間となります。</p> <p>本来は、お一人ずつお渡しさせていただくところですが、新型コロナウイルス感染症対策として接触を避けるため、机の上に置かせていただいておりますことをご了承願います。</p> <p style="text-align: center;">～委員紹介～</p> <p>それでは、これより令和4年度第1回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会します。</p> <p>議事進行に先立ちまして、正副議長の選出を行います。</p> <p style="text-align: center;">～議長 及び 副議長選出～</p>
<p>(事務局)</p>	<p>それでは、早速議事に移ります。議事進行につきましては、議長よろしく申し上げます。</p>
<p>(議長)</p>	<p>はい。では議事に入る前に、今一度、運営協議会要綱を確認させていただ</p>

きたいと思います。

第1条で「板橋区高齢者大学校及び板橋グリーンカレッジ大学院の事業の円滑な運営を図るため、この運営協議会を設置する。」とされております。

この協議会で協議すべきことは、板橋グリーンカレッジの運営に関わること、すなわち年間カリキュラムや講師選定、その他の運営に関することです。他に参考意見や提案を求められることもございます。ただし、本協議会は決定機関ではございません。区の基本方針を条例の形で決めるのは区議会あり、具体的な政策として実行していくのは区役所です。そのことを確認しておきたいと思います。ただ、一般区民及び有識者から重要な参考意見として、教育委員会事務局生涯学習課におかれましてはできるだけ尊重していただくとありがたいと存じます。

本日は、初めての委員もいらっしゃいます。大事なことですので本協議会の位置づけについて確認させていただきました。

それでは議事に入りたいと思います。

初めに、本協議会運営要綱第6条第2項により、定足数は半数以上となっておりますが、本日は、(8名中)6名の委員の出席がございますので、有効に成立していることを申し伝えさせていただきます。

また、本日は傍聴の方はおられないということをお知らせいたします。

それでは、お手元に配布しております次第に従って、議事を進めてまいります。

まず、資料2「令和4年度受講状況について」の報告を事務局よりお願いします。

(事務局)

それでは、報告事項の説明に移ります。初めに資料2をご覧ください。

高齢者大学校の受講状況等について、平成6年度の開校当時の推移を掲載しておりますが、今年度については4ページをご覧ください。

受講生募集については、例年1月中旬に行っており、今年度の人数はその時点のものとなっております。

新規入学の欄は教養課程の人数でございます。午前コース・午後コース各80名で計160名の定員を設けたところ、応募者が184名いらっしゃいました。定員を超えたため抽選となり、160名の方が当選し、24名の方が落選となりました。

専門課程については、昨年度の協議会でご了承いただいておりますが、今年度は2部制を廃止し、1部のみいたしました。定員は、聴講生を含め、各コース80名、計240名となっております。教養課程からの進級者が129名、聴講生が111名となっております。聴講生につきまして、228名の応募があり、教養課程同様抽選となり、117名の方が落選いたしました。

コロナ禍ではありますが、教養課程及び聴講生どちらも定員を超える応募があり、特に聴講生の落選者が多い結果となりました。これは、定員を減らしたことにより聴講生の入れる枠が少なくなってしまったためでございます。

しかし、新型コロナウイルス感染症は長期化しており、コロナ前の定員数に戻すことはなかなか難しい状況ですので、次年度も同様の定員で募集を考えているところでございます。

続きまして、5ページ「板橋グリーンカレッジ大学院受講状況」をご覧ください。

大学院は、定員が各コース30名で計90名のところ、今年度の入学決定者数は、56名となっております。それぞれ、文化文学コースは25名、社会生活コースは16名、健康福祉コースは15名いらっしゃいます。どのコースも定員割れとはなっておりますが、昨年度よりは応募者数が増えた結果となりました。募集にあたっては、広報いたばしへの掲載・ホームページ掲載・受講生へチラシの配布などを行いました。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

(議長)

ありがとうございます。資料2の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言をお願いいたします。

では、はじめに皆様のご発言を引き出させていただくという意味で私から質問をさせていただきます。

結果的に落選してしまった方がかなり多いということで、その方たちへのフォローは何かあるのでしょうか？

(事務局)

ありがとうございます。特段のフォローということはしておりませんが、本来であれば落選した方にも同じような教育の機会は提供すべきだと我々も考えております。

本日このようなご意見もいただきましたので、今後はそういった方へもなるべく教育の機会を提供できるような仕組みというのを整えて、例えば講座を録画しYouTubeで流す、資料だけはお渡しするであるとか、様々な方法があるかと思っておりますので、皆様と相談しながら考えていきたいと思っております。

本来は定員数を増やすのが一番だとは思いますが、コロナ対策の観点からなかなか難しいところですので、検討させていただければと思います。

来年以降もおそらくこういった形で落選をされる方もいらっしゃるかと思っておりますので、なるべくそういう方へのフォローは考えていきたいと思っております。

(議長)

はいありがとうございます。できることできないことありますので、できる範囲でお願いしたいと思います。

(委員)	<p>コロナ禍ということで定員を減らしているかと思いますが、どれくらい減らしているのでしょうか？</p>
(事務局)	<p>教養課程ですと、300名募集だったところを160名にしたため、ほぼ半減でやっておりますので、それで定員オーバーとなったと思われます。</p> <p>なるべく人と人との距離を取るようするため、密を防ぐような形で会場の席配置など設定をした結果でございます。</p>
(委員)	<p>広い会場に変えれば定員は増やせるのでしょうか？</p>
(事務局)	<p>グリーンカレッジ事業は、グリーンカレッジホールを会場として実施する前提がありますので、残念ながら定員はしばらく現在と同数が続くと思われれます。</p>
(委員)	<p>分かりました。ありがとうございました。</p>
(議長)	<p>はい。他にご意見などありますでしょうか。</p> <p>ないようなので、次に参りますが、資料2についてご意見などございましたら、この後でも結構ですのでご発言をお願いします。</p> <p>続きまして、今後の運営に関わる部分について、資料3の説明を事務局からよろしくをお願いします。</p>
(事務局)	<p>はい。それでは、資料3をご覧ください。令和4年度後期のカリキュラムでございます。</p> <p>まず教養課程からご説明いたします。教養課程は全員が同じ講義を聞きますので、2年目の専門課程の3コースに繋がる内容を、バランスを考えながら組みました。第15回目では、本日は欠席でございますが、松岡洋子委員にご登壇いただきます。また、第16回目では、教育科学館の協力で、天文担当の科学指導員による座学と、プラネタリウム鑑賞を実施します。</p> <p>新規講師は、お二方でございます。</p> <p>まず、第11回 明治安田生命保険 相互会社池袋支社 教育・育成課長の牛腸 知江先生で、「基礎から学ぶ相続対策」をテーマにご講義いただきます。</p> <p>明治安田生命は区と地域社会の発展に関する連携協定を結んでおり、同社が社会貢献活動として講座を実施していることから講師として依頼いたしました。</p> <p>続きまして、第14回 東京家政大学 准教授の 平野 順子先生にご講義いただきます。先生は、男女社会参画課からの紹介で、登壇依頼をした次第でございます。</p>

続きまして、専門課程についてご説明いたします。11 ページをご覧ください。こちらは、今までのアンケート結果で満足度が高く、再登壇のご要望が多かった講師の方々を中心に、カリキュラムの編成をいたしました。

新規講師といたしましては、文化文学コースにお二方いらっしゃいます。まず第 11 回から 14 回目に、波多野純建築設計事務所の波多野 純先生にご登壇いただきます。波多野先生は、昨年度大学院で 1 年間ご登壇いただき、受講生よりご好評を得たので、今回は新たに大学校のほうで依頼いたしました。次に第 15 回目に映像メディア史の研究者で現在教育科学館に所属する山端 健志先生に、映像機器の発達史やメディア史についてお話をいただく予定です。

大学院については、昨年度の協議会において、一年間の日程はすでに決定しております。後期日程においては、3 コースとも卒業研究発表会に向けて、グループ学習を中心に進めていく予定でございます。

(議長) ありがとうございます。資料 3 の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言をお願いいたします。

(委員) 教養課程と専門課程を分けておりますが、現在の大学はそういった分け方をしていないので、少し古めかしいかなと感じます。

私が大学にいるからというものもあるかもしれませんが、もしかしたらここはいずれ変えた方がいいところかもしれません。

それぞれの課程の内容を見ても、特に意識して分けているような感じでもないで、いずれ考え直しても良いかもしれないと感じました。

(事務局) ありがとうございます。確かに、私も大学を出て 20 年以上経ちますが、当時は 1・2 年で教養、3・4 年で専門をやって、その後大学院に行くという形になっていたと思いますが、現在はそのスキームが変化しているように感じます。

例えば教養学部は 4 年間、教養学を学び、本当にもっと学びたい、進化した場合は、さらにその上に行くという形式も増えているというのは、私も聞き及んでおります。

ただ、カリキュラムやシラバスについては、我々だけでは設定することが難しいので、こういった場で委員の皆様の意見を聞きながら、より良い学びにつながるような講義を提供していきたいと考えておりますので、ご協力を頂ければと思っております。

(議長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか？

	<p>初めてということもあり、中々質問もしづらいとは思いますが、他の委員の目から講義内容等を見て、「これは難しいのでは」、「これは面白い」といったような内容はありますでしょうか？</p>
(委員)	<p>難しいというよりは、皆さん興味などはこの年になりますとかなり固まってきたところもありますので、講義内容を見て、ここは自分と合っているな、興味があることだなとか、ここは皆様からレクチャーしてもらおうかな、というものもありますが、後々、もしかしたら、「使うものがあつた、よかつた、ここに来てよかつた」、となるかもしれませんが、まだそのところが計れておりません。</p>
(議長)	<p>はい、ありがとうございます。大変重要な事を仰っていただきました。シニア世代ともなると、ある程度興味とかそういったものも固まっていると思いますので、ここにある講義を全部受講するとなると、関心にはバラつきがありますよね。</p>
(委員)	<p>基本的なことでお伺いしますが、コースはいくつかに分かれてありますが、そのコース内のそれぞれのテーマの選定はどのようなプロセスで選定されるのでしょうか？</p>
(事務局)	<p>はい、基本的に専門課程コースが3コースありまして、文化文学コース、社会生活コース、健康福祉コース。そして教養課程につきましては、その基となるような学習をしていただくコースとして設定しているものでございます。</p> <p>先ほどお話の中で、その辺の繋がりがどうなのかというご意見もいただきましたので、今後シラバス自体もどこからどこに繋がっていくのかについてもきちんと明確化しながら、講義の設定についてもしていかなければならないのかなと思っております。</p> <p>あと、先ほど委員がおっしゃられた通り、皆さん色々ベクトルが違ふと思います。それも含めてニーズ等も我々の方で確認しなければなりませんし、逆に受講者側からも「こういう講義を受けてよかつたな」、「興味はなかつたけど、結局興味があつたな」という講義がひょっとしたらあるかもしれないので、その辺も含めて、この場で皆さんとご相談しながら後期のものも決定していきたいのと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
(委員)	<p>大学生でしたら、あまり社会生活もまだやっていませんので、どっちにしたらいいのかな、って思いながら、自分の方向を決めていくと思いますが、私達の年になりますと大体、講義概要を見ながらこれは自分と合っているかな？とか「自分は今までもこんなことしてきたし、これからはこういう感じかな」といった風に少しは分かるように思います。</p>

<p>(議長)</p>	<p>はい、ありがとうございます。お二方の委員に重要なことを仰っていただきました。</p> <p>気付いたのですが、講義概要で講座の効果と書かれておりますが、その狙いのところで「1年目の教養課程では仲間づくりや地域活動、生涯学習を促進する多様なテーマについて学びます。」ということで、これはこれでいいと思いますが、この多様なテーマを学んだ結果、何ができるようになるのかといったところが、もう一言だけあるとまたいいのかなと思います。</p> <p>今後の参考にしていただけたらということではいかがですかね。</p> <p>はい、他に何かございますか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>私が受講した時の事で、2年間教養と専門を共に学んでいく中で、同じ班の方とは席が近いこともあり、非常に親しくなって仲間ができてくるという、素晴らしいプロセスがあります。</p> <p>だからそういうところを意識して、議長のお話と関わるのですが、一頃、1週間に1回だけだったと思いますが、終わりの頃にグループで分かれて、フリートーキングをして、繋がりを固める。そういったような1時間がすごく貴重に感じました。</p> <p>最近それがなくなっているので、できましたらその時間があるといいではないかと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい、ありがとうございます。狙いの中ではやはり仲間作り、皆様の学び直しという観点からもありますけれども、その他に仲間作りという観点もあると思いますので、以前そういうことをやられていたということであれば、今後可能な限り、復活の検討はさせていただきたいと思っております。</p>
<p>(議長)</p>	<p>コロナ禍ということもあり、中々できることとできないことがあると思いますが、今回委員の皆様から出てきたご提案を、ご検討いただけたらと思います。</p> <p>はい、それでは他にも議題がありますので、次に進みたいと思います。</p> <p>この部分についての質問がまたありましたら、後からでも結構ですので、仰ってください。</p> <p>それでは、続きまして報告事項(3)に参ります。</p> <p>説明を、事務局からお願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい、それでは報告事項(3)、「専門課程文化文学コース第2回講義について」です。これは、残念な報告というか、我々も体制をもう少し考え直していかなければいけないのかなということもありますので、ご報告をさせていただきます。</p> <p>今年度の前期講義、文化文学コースの講義の中で5月26日、「板橋区に暮</p>

らした画家」ということで、現代美術の講義を行いました。

この講義自体は、板橋区立美術館で実施し、座学をやった後で、特別展を見ていただくという授業を、美術館の指導の下、行いました。

80名程度のご参加をいただき、40名ずつ分かれて、前半講義を受けて、後半絵を見ていただく班と、前半絵を見ていただいて後半講義を受ける班と、2班に分かれて行ったというものでございます。

その中で、絵を見られた方の中で、直接絵に触れてしまったという事件がございました。

美術館の絵は、カバーがしてあるようなものではなくて、絵がそのまま展示されている状態なので、その方は写真のような絵が本当に写真かどうか確かめようと触ってしまった。という事件がございました。

我々も現認をしているわけではなくて、一緒に参加されていた方から、後ほどご報告をいただき判明いたしました。

絵自体も美術館の学芸員と確認をしまして、劣化はないというところで、今のところ落ち着いてはいるところでございます。

今回の件については、我々の体制も、それほどそこに人が張り付けていたわけではなく、広い展示室ですので、全てを見渡せるようにできていなかったというのが問題だったのかなと思っております。

我々も学びの深化については、やはりフィールドワークも不可欠なものだと思っております。今後座学だけではなく、こういった展示会等々にご案内することによって、さらに色々な興味というものを引き出していきたいなと思っております。

しかし、中々こういう事件がありますと、「受け入れは難しいよ」というようなお話にもなりかねないところもございます。

我々もまさかとは思ったのですが、こういう事件があったことで、今後防ぐためにはどんなことでも、禁止事項については事前にきちんとして説明をするということと、当日もなるべく人員配置をきっちりすることによって、こういった事件を未然に防ぐ体制を取っていかなければならないかなと考えているところでございます。

大事な美術品で、区民の宝でもございますので、今後はそういうことがないように我々も努めていかなければならないと考えているところでございます。

こういった事件があり、我々も体制を考えていかなければならないということで、ご報告をさせていただきました。

(議長)

はい、ありがとうございます。

今ご報告いただいた件でございますが、今日は区職員の委員がいらっしゃっておりますし、生涯学習課長もおられますので、この報告事項(3)に関して、何か補足する点などございますか？

(委員)	<p>我々も参加される方の、ある程度の常識というものを信頼しつつ事業をやっておりますので、こういった事態が生じてしまったということは残念でなりません。</p> <p>こういった事業は、様々な機関の協力の下に成り立っておりますが、このようなことがありますと、せっかくの素晴らしい講義もできなくなってしまいますので、そこは参加者に当然自覚を持って参加していただき、我々運営側も、十分に気を付けながら、今後はより慎重にやっていきたいなど思っているところがございます。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。では、委員の皆様、報告事項(3)について、何かご意見などありますでしょうか。</p>
(委員)	<p>美術館は組織の位置付けとして、教育委員会所管なのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>いいえ。教育委員会ではなく、区長部局の文化・国際交流課の所管となっております。</p>
(議長)	<p>確かそうですね。美術館は区長部局ですよ。</p> <p>私も元々島根県で文化財行政に関わってきた者ですので、そういった立場から少しだけ申し上げます。</p> <p>近年文化財の活用ということが、非常に注視されていまして、文化庁もその辺のところの担当部局を置いたり、東京国立博物館でもそういった活用センターのようなものを作ったり、そういった形で活用ということが非常に主張されてですね、そして、それを基に色々と自治体の文化財行政部局は今変革を迫られているということだと思います。</p> <p>そのこと自体は決して悪いことではないのですけれども、やはり今回の出来事というのは、活用を図るということは大事けれども、文化財を後世に伝えるということも、大事だということを改めて問題提起されていると思います。だから活用と保存は表裏一体のことなのですね。</p> <p>そういったことを、今まで現場の学芸員は非常に苦労しながら努力し、やってきているところです。</p> <p>今回の場合は、誰が悪いとかいう問題ではなくて、やはり露出展示というのは非常に危険だということで、そういったことが起こり得るということを想定して、予め「文化財というのは大事なものです。」といったことを、事前に告知する掲示を行うとか、あるいはそういった方が出てくるということを想定して、美術館と協力して、そういったことがないように人員配置するとか、今回の出来事を契機にそういった対策をとっていただきたいと思います。</p> <p>ただ本件につきましては、ここでどうこうという話ではなくて、恐らく区の文化財担当部局がお考えになっていると思いますけれども、関係部局で協議して行って頂きたいと思います。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>こういった事件は、板橋区だけで色々なところ起きている可能性があります。今「活用、活用」と言われているところではありますが、こういった問題もある。ということをお話いただければと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>これまでの文化財は、重要な国の宝である文化財を、いかに後世に伝えていくのか、保存を主眼にしていたと思います。</p> <p>ただ、我々も史跡等扱っている部分においては、中々保存だけでは区民の皆様のご理解を得られない部分もあって、活用の部分も少し検討を進めてほしいという意見も多いところではありました。</p> <p>とはいえ、いきすぎた活用は今回のような事件を引き起こすので、そのへんのバランスが難しいなど、活用と保存のバランスというのは非常に難しいところだなと感じるところでございますので、やはりこのような事件がありまして、もう1度、いきすぎた活用というのがないように、きちんと考えながら、事業を展開しないといけないと考えている次第でございます。</p>
<p>(議長)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に活用することで、文化財に対する理解が深まって、それは結果的に保存につながっていくわけなので、活用自体をやめる必要は全然ありません。</p> <p>むしろそういったことで萎縮しない方がいいのですが、「これはあなたの財産ではなくて日本国民の財産です。世界の財産です。」そういう意識を、受講者に植え付けることができれば良いと思います。</p> <p>そうしましたら、「5 報告事項」が終わりまして、次「6 協議事項」に入りますが、協議会開始から1時間ほど経過しましたので、ここで一旦休憩とします。</p>
<p>(休憩)</p>	<p>(休憩)</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは、「6 協議事項」で、「今後の板橋グリーンカレッジのあり方」について、事務局より願います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい、ありがとうございます。それでは協議事項ということで、本日皆様から忌憚のないご意見やご感想をお話いただければと思っております。</p> <p>それでは前段のご説明をさせていただきます。今後の板橋グリーンカレッジのあり方についてというところで、現在生涯学習課で検討を進めていることになっております。</p> <p>これは、令和4年度、今年度から、板橋グリーンカレッジ事業の所管が教育委員会に移管となったためです。</p> <p>これまで、高齢者部門、健康生きがい部で所管していた部分が、教育委員会に移管されております。</p>

これにつきましては、生涯学習の、学習の一元化というスキームがありまして、その下に、移管があったというところでございます。

本年1月に教育委員会ではいたばし学び支援プラン 2025 というものを作成いたしました。

この中にはグリーンカレッジについての項目もありまして、どう書かれているかと言いますと、「シニア世代だけではなく、対象を多世代に広げることを検討し、身近な問題や社会的問題の解決につながる、リアリティのある学習ができるカリキュラムを編成するなど、主に区民が主体となる学習活動を促進できる授業を実施し、こうした取り組みを含め、地域課題の解決に資するよう、社会教育の充実を目指していきます。」という形になっております。

そこで、生涯学習課につきましては、新たなグリーンカレッジの枠組みについて、検討の方を始めたという次第でございます。

具体的にはどういったことを検討しているかと言いますと、例えばカレッジの受講条件を多世代にする。現在の60歳以上から引き下げること。それから、多くの方が講義に参加しやすいように土日の実施をするなど、まずカレッジのスキームの部分を検討することと、利用者のニーズに応じた講義を勉強するなど、カリキュラムに関することなどの検討を開始しているところでございます。

その検討の中ではカリキュラムに関して、現在教育委員会の生涯学習課に移管になったと申しましたが、郷土資料館、それから教育科学館といった施設を所管している部署でございますので、教育委員会が持つ社会教育施設と連携し、これまでにない講座を実施していきたいと考えているところでございます。

また、これまでに連携してきた大学であるとか、企業、そういったところの公開講座の実施等も検討しているところでございます。

この検討につきましては、令和5年度末を目途に終了をめざしております。

令和6年度につきましては、新たな枠組みでのグリーンカレッジの実施を検討しているところでございます。

検討内容につきましては、この協議会の方で皆様にご意見をいただく他、有識者であるとか、学術経験者の方にもヒアリングを受けながら、新たな枠組みを検討していきたいと考えております。

この検討の結論につきましては、報告書にまとめまして、議会報告まで行う予定にしております。

それからこれまでのグリーンカレッジの事業ということで、こうした新たな動きがある一方で、現在のグリーンカレッジ事業につきましては、区の基本計画であるいたばし NO.1 実現プラン 2025 における、「豊かな健康長寿社会」という基本政策に合致したものであると考えております。

このことから、これまでの事業効果につきましても、きちんと検証を行った上で、新たな枠組みに移行したいと考えているところでございます。

今年度の予定は、来年度も含めて検討を行いながら、年代を区切らない公

開講座、板橋グリーンカレッジオープンキャンパス事業というものをやっていきたいと考えております。

そのオープンキャンパス事業で現在検討しているのが、当課の学芸員による講座で、板橋区を5つの地域に分けて、それぞれの地域の歴史や風土を、産業や地形などの講座を通じて、板橋という町を知ってもらう、板橋学講座、それから、これまで連携してきた区内企業さんの寄付講座こういったものを通して、利用者の方のニーズのチェックをしていきたいと考えております。

そして本日、こういったお話にご了承いただければ、今年の10月頃から、パイロット的に実施をしていきたいと考えているところでございます。

加えまして今年度は、区政施行90周年がございますので、これにつきましても連携しながら、オープンキャンパス事業というものを進めていきたいと考えております。

現在のところ我々が検討している内容につきましては以上ですので、こういった内容につきまして、皆様のご意見を今日賜りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(議長)

はい、ありがとうございます。「6協議事項」とありますが、大体120分の半分ほどを使ってやるような話ということで、時間を確保しました

今後の生涯学習課に移管したことによって、板橋グリーンカレッジ、今後どう変わっていくのか。

今まではシニア世代が中心でしたが、年代を区切らないでやっていくということが、大きな流れだということと、それから板橋学などですね、そういったものとも連動してくるので、5つの地区に分けてなど、また、社会教育施設は郷土資料館や教育科学館などの学芸員の方にもご協力いただきます。そういったことを、これは各論ですが、お話いただきました。

大きなところで繰り返しますけども、今までシニア世代に限定されていたのを、枠を広げるということですね。

皆様、いかがでございましょうか。

(委員)

そうですね、新しい方向性として素晴らしいたたき台じゃないかなと思ひます。

各論に入りますと、色々出てくると思ひますが、ちょうどこの区政90周年との連携など、どういう内容が出てくるか非常に興味があるわけですが、第一印象としては、これだけ中身があれば非常に楽しみにして良いのではと思ひます。

シニア世代だけでなく多世代も、この考え方はとても良いですが、例えば私は生涯学習センター(まなぼーと)を使わせてもらっているのですが、あいった所に、施設として、キッズの部分とシニアの部分と中間が欠けているように感じます。

そういった中で働く世代がどう参加できるということで、土日という案も

	<p>出てきて、そういう入り口をいくつか用意されて、きっかけになって、総合的に良い事業に発展していくということは素晴らしいことだと思います。大変期待したいと思います。</p>
(議長)	<p>ありがとうございました。 それでは、他の委員はいかがでしょうか。</p>
(委員)	<p>年齢に関しては、仕事をしている30代・40代の方々は知識欲に飢えている方々がいると思うので、それは良いことだと思います。 ただそうすると、申し込みが現在の状態でも多い中で、講座を増やしたら結構大変なのかな、予算的にも大丈夫なのかなと。私が考える事ではないかもしれませんが。 議会報告はいつぐらいの予定でしょうか。</p>
(事務局)	<p>枠組み自体を決定した後で、議会報告、告知を出そうと思っております。 報告時期は概ね令和6年の2月頃を予定しております。</p>
(委員)	<p>予算もそれに併せてということですよ。 予算が一番大事だと思います。せっかく良い事を言っているけど、予算がないとできないので、そういったところをしっかりとやって頂ければ良いのではないかなと思います。 あと、これは報告事項1でお聞きすればよかったのですが、プライバシーの問題で書いていないのかもしれませんが、受講者の年代について、細かいものは必要ありませんが、結構お年寄りの人もいると思うので、それは知りたいなと思いました。それによって、内容も変わってくることもあるかなと思います。 また、今の話から少しずれるのですが、このグリーンカレッジホールで講座はほとんど実施されているかと思いますが、ここから一番近いのは都営三田線だと思います。 板橋区は、JRも三田線も通っているので、例えば今後、淑徳大学や大東文化大学など、委員にもいることですので、大学のキャンパスの広いところを使い、そういうことで、普段の感覚と違って、学食で食事をするなどして、若い学生たちがいる中で、何かしら交流が生まれれば、とても活気が出てくるのかなと思いました。 あるいは私の知り合いで、オリエンタル酵母とか、そういった企業にも、大きな多目的ホールや講堂などがあると思うので、そういったところでもグリーンカレッジを実施したりなどして、どんどん拡げていけば面白いことができるのかなと思います。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。</p>

今のお話をお聞きしていて、浮かびあがってきたなという課題がありまして、ただ単に門戸を拓げるだけで、世代間の交流は促進されていくのかということですよ。

いくら門戸を拓げて、来て頂いても。それぞれの交流がないと、成果があらがないのではないのかなと思います。同時にそういったような場で、シニア世代が同じく受講している若い世代へ、何かアドバイスできるとか、何か活躍できるような、そういった場が必要なんじゃないかなと思いました。

フッと私の頭の中に思い浮かんだのは、皆さんこれはご覧になってないと思いますが、「団地ともお」というアニメーションが昔NHKでやっていました。内容は主人公のともお君が、夏休みの宿題で「戦争中の出来事」について、同じ団地のおじいちゃんに色々取材に行くのですが、そのうちおじいちゃんの講義がはじまります。最初は、おじいちゃんのところに団地の子ども達がいっぱい集まってきたのですが、おじいちゃんの話が説教続きで、一人去り、二人去り…（笑）。でも団地の集会所がそういう世代間の交流の場として機能しているというのは大事なことですよね。そういったような交流も良いのではと思いました。

あと、実は八潮市立資料館というところへ、私の学芸員課程の学生が教育普及のボランティアに行った際、行って良かった点として、その資料館へずっと前からいらっしゃるシニアの世代のボランティアの方に、色々教えてもらった事を挙げていました。

そのテーマが「昔の遊び」ということで、メンコやけん玉などを、市内の小学校の子供たちに来てもらって、私の教え子もやり方を教えるのですが、その際、「そうじゃなくこうだよ」とおじいちゃんおばあちゃんに教えてもらったと、色々な話が聞いてよかったということ、教え子から聞きました。

こういったような場を提供できる形にするのが課題なのかなと、そういった印象を持ちました。

すみません、勝手に喋ってしまいましたが、今までのところで、他の委員から、何かありますでしょうか。

(委員)

世代間の交流は大変重要なことだとは思いますが、ただ年齢を取り払うだけでは、何というか、今までと同じようにやはり仕事を辞めた方々が中心になってくるのではないかと思います。

土日の活用など先ほど出ていましたけれども、そういう時間的な問題、あるいはニーズといいますか、皆さんどういう分野に興味があるのかなども考慮しつつ、また座学だけではなく美術館や博物館とかそういうところを活用できればいいなと思います。

私は今放送大学の学生でもあるのですが、飯田橋に印刷博物館というのがあります、「日本の印刷文化の歴史」という授業科目なのですが、博物館内で全6日間の講義を実施し、博物館の展示物、館所蔵品の実物を見たり触れたりできた事が非常に印象に残っております。

	<p>やっぱり実物を囲んで話し合う中で交流というのは出てくるのかなと思います。あるいは授業が終わってからみんなでお茶に行くなど、そういった交流の部分が非常に重要になってくるのかなと思います。</p> <p>また、年齢制限を取り払うだけではちょっと物足りないというか、プラスアルファの、時間的に空間的にいろんな面からのアプローチなどもやっていただければもっと良くなるのではないかなと思います。</p> <p>先ほど他の委員から受講者の年代のお話もありましたが、現在受講者は60歳以上ということですが、その内訳はどのような形でしょうか。</p>
(事務局)	<p>およそ平均70歳程度で、最高齢が今年の受講生だと87歳という方がいらっしゃいます。</p>
(委員)	<p>職業を持っておられない子どもの手が離れた主婦の方などは結構参加する人はいらっしゃるかもしれないと思いますが、では、現在の男女比はどうなっておりますか。</p>
(事務局)	<p>具体的な数値は今出ませんが、女性の方が多い形になっております。</p>
(委員)	<p>よろしいでしょうか。先ほどお伝えした部分ですが、どの交通機関を使って、ここまで来ているかというようなアンケートをやれば、良いのかなと思います。</p>
(事務局)	<p>現在区の方でも、携帯の位置情報を使った移動データを取得できるような仕組みがありますので、どこからグリーンカレッジに来ているのか、ここはふれあい館もあるので、設定は難しいかもしれませんが、そのデータはおそらく取れると思います。</p> <p>近いからいらっしゃる方が多いかと思いますが、例えば成増など、路線も違うところからお越しになられる方も、恐らく多くいらっしゃるかと思いますので、やはりそういった情報を使うことは、ニーズのチェックも中でも重要なことなのかなと思っております。</p> <p>また先ほど委員からご提案いただいた、大学で試しにやってみたらどうかという件で、もし可能であれば是非やらしていただきたいなと思っております。ところが、そういったことは可能なのでしょうか？</p>
(議長)	<p>大学も現在、地域貢献を求められているところですので、大東文化大学さんも本学も、大丈夫だと思います。</p>
(委員)	<p>実はOB会でも、大東文化大学さんにご協力頂いて、講堂で講演会をやって、その後食堂で、バイキング形式でやったこともあります。内容的には大変喜ばれました。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございます。大学でそういうことが可能なのであれば、我々も検討させていただいて、ご協力いただくこともあるかなと思います。</p> <p>それから、委員からはオリエンタル酵母や印刷博物館のお話があったかと思いますが、印刷博物館は凸版印刷がやっているところでして、凸版印刷は板橋区に会社があるので、私も文化財を担当した時には、印刷博物館の学芸員と結構やり取りをさせていただいて、そういった印刷の歴史などをご説明するなど面白いのかなと思っておりました。</p>
<p>(委員)</p>	<p>私の受けた授業も毎回講師の方が違っていて、いろいろな専門の方から、様々な方面から非常に興味深いお話をいただけて大変よかったです。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>凸版印刷の方も、地域貢献というのはお話をされておまして、元々ルーツが板橋にあるということもあり、できれば色々ご協力したいというお話もありましたので、印刷博物館の方に、我々の方からアプローチをしてみたいなと思っております。</p> <p>この他にも区内にはトプコンやS B食品、タニタなど、非常に多くの会社ありますので、そういったところと連携して、産業という視点からも授業をやっても面白いかな、というところは我々の方でも検討しているところがございます。</p>
<p>(議長)</p>	<p>その気になれば教育資源はいっぱいあるということなので、積極的に活用していくと、地域の活性につながっていきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>今までのところをお聞きになっていて、何か感想などございますか？</p>
<p>(委員)</p>	<p>質問になりますが、枠組みを拡げるということは、現状ある年代の人たちが集まって学習し、サークルを作り始めている方たちもいる中で、それをあえて年代の区切りを取っ払うというお話でしょうか？</p>
<p>(事務局)</p>	<p>その部分も含めて、今後の検討の中でどうしていこうかということになるかと思いますが。</p> <p>私も4月からですが、受講生の方々を拝見し、皆さん本当に熱心に1時間前から来て授業の準備をしているとか、終わった後も先生のところにずっと並んで10人20人並んで質問しているとか、まさに学び直し、リカレントというか、知的欲求に溢れている方ばかりなので、この場所はこの場所で、必要なのではないかと、ということは我々の中でも検討しているところではございます。</p> <p>加えて、この仕組みを、シニア世代だけにしているのはもったいないのではないかと。区民の中でももう少し下の世代でも、そういった知的欲求に溢れて</p>

	<p>いる方もいらっしゃるし、そういった方々へ門戸を開き、場所を提供するというのは、我々の使命ではないかと考えておりますので、そのやり方についてですね、今のままを継続していきつつ、プラスをしていくのかとか、もう今の枠組みを全部取っ払って、全世代にするのかとか、そのあたりが、今後の検討材料なのかなと考えております。</p>
(委員)	<p>立教大学にも、セカンドステージ大学という、ある年代より上の方を集めて、学習するというものがあるのですが、やっぱりその授業の体制を見てみますと、明らかに私たちぐらいの年代の人たちの学習意欲、熱というのがものすごいです。</p> <p>だから、その年代も全部取っ払ってということになると、カリキュラムの組み方とか、その後の行動の仕方というか、どれを取って、どんな風に活動していくのかというのが結構大変かなと思います。</p> <p>今みんなある程度、落ち着いていて、その中で学習意欲があるのですが、ちょっとよく考えたいなとは思いますがね。</p>
(議長)	<p>今はある程度、一定のイメージがあって、その安定した中で学んでいる人にすると、これから「若い人も入れるので交流してください」って言っても、急にはそういう風にも変わっていけないし、やはりある種の不安はありますよね。</p>
(委員)	<p>遠慮はすると思います。やっぱり未来ある人たちに、先に優先的に勉強してもらいたいし、その人たちがカンファタブルであるように、バックアップしていくのが私たちの年代の役割なのですが、それでもこうやって勉強させて頂いているということはあると思います。</p>
(議長)	<p>今委員が仰って頂いた事は、大事な事だと思います。</p> <p>どうしてもやっぱり、ここは若い人優先にとか、そういうことになっていってしまうと、本来の趣旨からどんどんずれていきますよね。</p> <p>そういうことにならないよう、全ての世代の人がここに来てよかったと思えるような仕組みにすることが大切だと思います。</p>
(委員)	<p>反対している訳ではありませんので、ご理解ください。</p>
(議長)	<p>本日は、ざっくばらんに色々な意見を頂いて可能性を提示する場なので、全てを整理するのは難しいかと思いますが、参考にして頂ければと思います。</p> <p>今までの部分で、事務局からお話し頂いてもよろしいですか。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。実は、こういった意見を生でお聞きしたかったというのも、今日の意図ではあったというところがございます。</p>

	<p>先ほどの議長の方のお話もありましたが、門戸を拓げるだけでは、そこに世代間の交流が発生しないと、拓げる意味がないのでは、というご意見をいただきまして、やはりそこが一番難しいのかなと感じました。</p> <p>実は区の生涯学習センターで、世代間交流を図る事業をやってはいますが、中高生くらいの子たちと、サークルでいらっしゃる高齢者の方々ということで、元々あまり話が合わないとか、そもそも利用している時間帯が全然違うとか、なかなか交流が難しいところがあります。</p> <p>生涯学習センターではこういったところは変えていきたいと思っておりますが、グリーンカレッジについても、世代間交流のモデルケースになるように、どうにかしていきたいと考えておりまして、先ほどの委員からのようなご意見を聞きながら、課題をどうやって解決していくかというのを、ぜひ皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をどんどん仰って頂ければと思っております。</p>
(議長)	<p>まとめていただきましたが、他に何かありますでしょうか？</p> <p>ちなみに、これは令和6年からということでしょうか？</p>
(事務局)	<p>一応、2年間でこの検討を進めたいと考えております。</p>
(議長)	<p>そうすると、この場でなくても、後からでも意見が思い付くこともあるかと思うので、こういった検討はこれからも続けていく形でしょうか？</p>
(事務局)	<p>はい、どんどん続けていきますし、思い付いた時にご連絡いただければ、こういったご意見は非常に重要だと思っておりますので、どんどん生涯学習課まで教えて頂ければと思います。</p>
(議長)	<p>そういたしましたら、委員の皆様は、本協議会が終わった後でも、思い付いた事がございましたら、生涯学習課の方にご連絡して頂ければと思います。</p> <p>まだ、少しお時間がありますので、他にご意見ございますか？</p>
(委員)	<p>組織の事で、先ほど2022年から教育委員会へ移管したということでしたが、移管したことで、今までとどういう違いがあるのでしょうか？</p> <p>何かあれば、この場で共有とかしたいなと思えます。</p>
(事務局)	<p>はい、これまでは高齢者施策の一環という部分で実施しておりました。</p> <p>先ほど申しましたとおり、いたばしNO.1実現プランでも「豊かな健康長寿社会」の基本政策がありますので、それには合致している施設ではあるとは思いますが、その他に、区民の教育意欲に応える場をきちんと提供できるような施設を、生涯学習課として一元化するという観点から、移管の方を受けたと私の方は考えております。</p>

	<p>現在、社会教育施設は色々なところがあり、特徴によって分化、例えば科学のことは教育科学館、生涯学習センターはサークルの支援や若い中高生世代の居場所づくりなどの役割がありますが、最終的にはそういうのではなくて、どこに行っても同じような体験や学習を受けることができるというのが、ゴールなのかなと感じているところです。</p> <p>そういったところも含めて、他の部門にあった生涯学習的な施設を教育委員会に移管することによって、一元化が進んでいくのではないかという目的があって、移管を受けているところでございます。</p>
(委員)	指定管理者の管理としては、同様に続いていくのでしょうか？
(事務局)	この建物の管理運営は指定管理者制度を取っているのですが、事業者が運営をしておりますが、グリーンカレッジ事業につきましては、区の事業なので、基本的に我々がきちんとタッチしてやっていく形になります。
(委員)	本当に例えばですが、私はテコンドー一部の部長をしまして、オリンピック選手も結構いて、毎年板橋区の文化憲章をもらったりしておりますが、今回組織が移管したことによって、例えばグリーンカレッジ大学院で論文を書いたりして、優秀な論文には賞を出し。表彰の時には区長がいらして、といったようなことも可能なわけですか？もしかしたら今までも可能だったかもしれませんが。
(事務局)	はい。今までもおそらく可能だったかと思いますが、より教育に寄った部門に移管されたことによって、より我々の方もそういったことが認識しやすくなったというのは確かだと思いますので、そういったスキームが可能なかどうかというのは私の方でお調べして、もし可能であるのであれば、積極的にお出ししていく形になるかと思います。
(委員)	何か、色々な事ができると、良いですね。
(事務局)	はい。
(議長)	他はいかがでしょうか。
(委員)	この生涯学習という概念は、年齢層的に60歳以上をターゲットにしたものでしょうか？
(事務局)	<p>概念自体は、基本的には人生全てのライフステージで学ぶものは生涯学習でございます。</p> <p>現在生涯学習の中に3つ、教育としてぶら下がっているのが、学校教育と</p>

	<p>社会教育、それから家庭教育です。</p> <p>幼児期は家庭教育で、学校教育は学校、それ以降は社会教育という扱いになっておりまして、我々としましては、学校教育、家庭教育以外のものは全て受け入れて、提供するというスタンスでやっておる部署になります。</p> <p>「教育」というのは教えるという事が主体になると思いますが、生涯学習の「学習」というのは、やっぱり学ぼう、習おうということが主体になって、自分で勉強しようという意欲なり行動がなければ何もできないなと思います。</p> <p>そして、そういうニーズが60歳以下にももしあるのであれば、門戸を開いてできるだけ多くの人を取り込んであげるべきだろうと思います。</p> <p>同じ年代の同じレベルの人たちばかり集まってもあまり発展性がなく、刺激がちょっと足りないかなという気もするので、いろんな立場のいろんな話が聞けたり、仕事もいろんな経験をしてきた人たちが集まってこそ生涯学習の意味があると思いますので、門戸を開くこと自体は非常に賛成です。そのやり方については、少し工夫がやっぱり必要かなというふうには思いますが。</p>
(委員)	
(事務局)	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>先ほど議長が仰って頂いたとは思いますが、グリーンカレッジに参加して頂いている方が、また若い方へ教えるというのも1つの学習であり教育であると思います。我々も学びの循環というテーマを持っておりまして、ここで学んだものを地域へ還元する、そしてまたグリーンカレッジに戻ってきて、受講生に教えるとか、そういった循環ができれば、世代間交流の1つの解決策になるのかなと考えておりますので、やり方が非常に難しいなとは思いますが、それもこの場で、皆様のご意見をお聞きしながら考えていきたいと思っております。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。学習と教育の違いという根本的なところまでお話をいただきまして、よかったですと思います。</p> <p>板橋グリーンカレッジのような事業では、現実には講座などで教え込まれる部分があると思いますが、せつかくこういった形で、生涯学習課に移管されたということは、むしろ学びの要素というものを、もっと拡充するという形ですので、先ほどお話がありましたように、郷土資料館の学芸員や教育科学館の学芸員の方と一緒にやるなど、これは非常に良いことだと思います。</p> <p>しかし、同時にやはり考えていただきたいのは、ただ教わるということだけではなく、教わったことをきっかけにして、今度は教える方にまわることで、シニア世代もそうですし、若い世代にも活躍してもらおうというか、お互いに教え合って、成長していったら、そして板橋の良さを発見するところだと思います。</p> <p>それが本当の板橋学であり、本当の意味での郷土愛というものだと思います。</p>

す。

あえて言わせていただきますと、郷土愛というのは、特定の地位にある人がトップダウンで上から教え込むべきものではないのです。

戦前の教育はそこで大きな失敗をしてしまいました。

そうではなくて、区民の皆さんが世代を超えて、お互いに地域の良さを自分たちで発見して行って、そしてそこで芽生えたものが、本当の意味での郷土愛につながります。行政は主導する立場ではなく、あくまでも支援する立場に徹すべきなのです。「板橋学」の主人公はあくまでも一人一人の区民の皆さんなのです。行政は区民の声を吸い上げる、ボトムアップこそが必要です。本日の会議の冒頭において、「板橋学」という言葉が出てきましたので、あえて申し上げました。

そういった意味で、今回の、今後のグリーンカレッジのあり方については、非常に大事な意味を持ちますので、今後とも本日のように、我々や多くの区民の皆さんの意見を聴取していただいて、皆様で良いものを作っていけたらと思います。皆様、他には、いかがでしょうか。

それでは、また後で思いつかれた点などがありましたら、生涯学習課へご連絡頂ければと思います。

(事務局)

最後に1つ、皆様にお願いがございます。

本日も活発な議論をして頂き、様々なご意見を頂戴しましたが、この運営協議会自体が年2回なので、次回より前に、途中の期間に我々の方から皆様にヒアリングなど、お話を聞く機会をいただきたいなと思っております。

例えば個別にお話をさせていただきたいとか、メールを送らせていただいて、ご意見を賜るなど、そういったところお願いをできればなと思っておりますので、ご了解いただければと思います。

(議長)

わかりました。それでは皆様、そういった形で連絡が来た際はそれぞれ対応するという事をお願いいたします。では、あとは皆様よろしいでしょうか。それでは、事務局にお返ししたいと思います。

(事務局)

皆様お疲れ様でした。誠にありがとうございました。

本日皆様から頂きました貴重なご意見を今後の板橋グリーンカレッジの運営の参考にさせて頂きたいと考えております。

次回の運営協議会の開催につきましては、本年の12月頃を予定しております。決まり次第、皆様にご通知申し上げます。

先ほどもお願いさせていただきましたが、途中でご相談ですとかそういったこともさせて頂きたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。それでは、これにて運営協議会を終了させていただきます、本日は誠にありがとうございました。